

【折々の季語 114 盆】

盆の雨やむときしづか風呂熱き

田中裕明（『山信』）

『山信』は二十歳を自祝して作られた句集だったから、この句は裕明十代の作品である。

百句を墨書し、大学の生協でコピーして綴じた、限定十部の私家版。その十部さえ、すべてを配らなかったようだ。つつましい出発だが、内容はおそろべき早熟とも老成とも言える。こんな完成度の高いところから出発した俳句作家はあまりいないのではないだろうか。

盆の雨は静かにやみ、風呂は熱く沸いている。ただそれだけのことが孕んでいる時空。その季節感や情の濃さ。この風呂は夜ではなく、おそらくは昼風呂か夕方の風呂。老成したように見えても、若い肉体と熱い情が成した句と言えるだろう。それにしても、呼吸が深い。